

## B 里山と文化と伝統分科会

### 遺跡からみた里山景観

- シンポジウム:  
日時:5月21日(土) 10:00~12:30  
場所:我孫子市中央学院大学6号館5F(658教室)
- 講演(遺跡からみた里山景観)  
(財)千葉県文化センター上席研究員
- 1. 縄文時代 上野秀明  
(千葉県教育庁教育振興部文化財課)  
文化財保護室 主任文化財主事
- 2. 弥生~中世 菅生 衛  
(千葉県教育庁教育振興部文化財課)  
文化財保護室 主任文化財主事
- 意見交換 コーディネーター  
西野 元(国土館大学 文学部非常勤講師)



会場写真

- 野外体験(予定)  
場所:手賀沼および近郊  
日時:6月12日(日) 10:00~15:00(小雨決行)  
備考:我孫子市との共催。水循環分科会との協働



### 13. まとめ 遺跡に学ぶこれからの里山のあり方

- 現状 私たちの暮らしは利便性を追求した結果大きく変わってきた
- 結論 縄文時代から資源循環型社会が作られている、これをもう一度学ぶ。
- 課題 利便性のカベをどう乗り越えられるか



分科会の内容ですが、一つは縄文時代私達がどのような生活をしていたのかと言う話です。生活する中で集落ができます。するとゴミが捨てられていくわけですけど、それは文化遺産としては貝塚として理解しているわけですけども、縄文時代からゴミ問題があって、それをリサイクルという形で上手に利用されてきています。それでその生活を見ると、それは、資源循環型社会の実現に向けての良いお手本でした。さらに縄文時代以降、私達の生活習慣の変遷については、このような形で遺跡に学び、これからの私達の生活も送れればと考えているところです。現在の状態は自分達が利便性を追求することによって環境が変わってきたので、今日勉強したように、縄文時代から循環型社会が作られていることをもう一度学ぶ必要があります。

その時に私達が一度獲得した利便性をどの程度まで理性的に抑えて、持続可能な社会の実現に向けて行動していけるかが課題になるのではと思います。

(加藤賢三)

## 14 里山と子どもの健康分科会

### 14 里山と子どもの健康

代表:井村弘子  
化学物質から子どもを守る

- シンポジウム:  
日時:5月21日  
場所:我孫子市中央学院大学6号館5F(658教室)
- 講演 飯沼 寿和氏  
(有害化学物質から子どもを守る  
千葉県ネットワーク代表)
- 講演 新倉 法子氏「住者からの報告」



会場写真

- シンポジウム(予定)  
タイトル:農分と森林保全  
場所:市原サンパサ  
日時:6月25日(日) 9:50~12:00 見学  
13:00~17:00 フォーラム 後援と討論会



### 14 まとめ 化学物質から子どもを守るために、私どもは地道な活動を皆でしていきましょう

- 現状 子どもたちの間に化学物質による健康被害が確実に増加。しかし、国も県も化学物質への取り組みが遅れている現状がある。  
市民は生活の利便性追求のみに走り、それらのリスクが子供らの将来に影響を落すことを追求しようとしていない現状である。
- 結論 子どもたちの教育や過程の中で化学物質に関して不足している、色々な機会を通して実態は対応する方法を知らせていくことが必要とおもわれます
- 課題 世のお父さん、お母さんたちに、このあふれ出す有害化学物質を、間違いのない情報として流すことが出来るかを、生活のなかの身近な化学物質と、その影響リスクを認識し、多くの市民に知らせるとともにメーカーや行政に対策を提案していくことを考える



「有害物質から子どもを守る千葉県ネットワーク」は[ 残土・産廃問題ネットワーク・ちば ]と連携しているグループです。よろしくお願ひします。

昨年、全国のお法投棄の3分の1は千葉県にはいつていると、環境省発表で報道されました。そのお法投棄の又3分の1が銚子に入っている。井戸水の電動系検査結果が1200を越えているところもあります。保健所の検査で800をこえているところもあります。他のところでは死んでしまうといわれている数値です。ペットボトルで料理をするという家もありますが、大変なことです。子どもだってたくさんいます。

そこにまた管理型処分場を作る許可が下りている。昔は利根川のほとりの水田が続く里山が、今は千葉県の北のはずれだからとゴミのお法投棄だらけなのでしょう。それらの産廃・残土は他県から持ち込まれたものがほとんどなのです。誰にも生活権があります。子どもにはたくさんの未来を生きる権利があります。子どもは大人よりもっと敏感に有害物質を体にとり込みます。国も県も子供への対策が非常に遅れています。生活の利便さを追求するその裏にアレルギー体質、化学物質過敏症、ぜんそくなどが年々就学児童の健康調査にも増えています。日本の未来を担う子どもにもっと光を当ててもらいたい。

(井村弘子)